



東濃5市それぞれの酒蔵が手がける酒のセットを開発した中京学院大の学生ら＝中津川市千旦林、中京学院大中津川キャンパス

中京院大ゼミ生、地元の魅力発信

東濃5市の酒蔵
銘酒セット発売

東濃5市と包括連携協定を結ぶ中京学院大は、各市の酒蔵の銘酒セット「ありがとうのうたげ」を開発し、新発売した。経営学部経営学科の脇田邦裕教授とゼミ生9人が共通の地域資源を洗い出す中で、酒蔵に注目した。今後の販売促進や管理などの活動も学生主導で進め、学びの機会としたい考え。

(富樫一平)

販売促進や管理、学びの機会に

同大は2013年と14年に協定を締結。10年が経過した契機に、同大が進める地域をフィールドにしたより深い学びの実践と、地域の魅力発信や地域経済の活性化を図るため、商品の開発に着手。別の授業で講演した酒類販売店「中山道大鋸」(中津川市本町)の大鋸伸行代表による協力で商品化にこぎ着けた。

「鯨波」(恵那醸造)、「女城主」(岩村醸造)、「小左衛門」(中島醸造)、「千古乃岩」(千古乃岩酒造)、「三千盛」(三千盛)のセット。全て180ミリサイズで3300円。商品名には地域への感謝とともに「とうのう(東濃)」の文字をしのばせた。

地元の道の駅などでも販売する。また東濃信用金庫の支援で法人向け需要の掘り起こしに取り組むほか、5市共通のふるさと納税返礼品にすべく申請中。学生たちは「300ケースの販売を目指したい」など意気込んだ。